

専攻医  
の主張

## 3年間の専門研修をスタートして

広島西医療センター総合診療科 岸槌 雄太郎

私は令和7年4月に広島西医療センター総合診療科で専門研修をスタートしました。高校卒業までを過ごした広島の地で、総合診療医としての道を歩み始めた喜びと不安を持ちながら成長できればと考えています。

私は広島県呉市で生まれ育ち、川崎医科大学に進学しました。小学生から続けてきたサッカーを大学6年生まで続けてきました。令和2年のCOVID-19のパンデミックで、医学生として、思うように実習ができないもどかしい日々を過ごしましたが、友達や部活動での時間で充実した時間を過ごせました。

卒業後、広島大学病院で1年間初期研修を行いました。専門的な診療をする機会に恵まれ、高度な医療知識と技術の奥深さを学びました。続く初期研修1年間で呉共済病院で行い、救急外来等でcommon diseaseを幅広く経験することができました。この2つの異なる環境での研修は、医療の「深さ」と「広さ」の両方を学ぶ、非常に有意義な時間でした。

そして今年度、私は広島西医療センターに赴任し、総合診療医としての専門研修を始めました。地域病院での幅広い疾患への対応力という、これまで学んできた知識と経験を融合させることの重要性を日々痛感しています。

現代医療の専門分化は素晴らしい進歩ですが、私は目の前の患者さんの訴えを、身体的な症状

だけでなく、精神的な悩み、社会的背景、生活環境、そしてその方の人生そのものから多角的に捉えていけたらと考えています。患者さんとの対話は、私にとって最も重要な診療行為です。私は、患者さんの話に丁寧に耳を傾け、時には世間話を交えながら、本音で語っていただけるような信頼関係を築くことを心がけています。その中で、病気の原因が、仕事のストレスや家族関係の悩み、あるいは経済的な不安にあることが明らかになることもあります。これは、医学的な知識だけでは決して見つけられない、人間的なつながりを大切にしていきたいと考えています。

将来的には、広島大学病院総合診療専門研修プログラムを通して培った知識や経験を地域医療や訪問診療で生かし、住み慣れた地域でその人らしく最期を迎えたいと願う方の生活全体を支えることができると考えています。そして、多様な職種をつなぎ、地域全体を俯瞰するジェネラリストとして、医療の全体像をマネジメントする役割も担っていければと思っています。

これからも、患者さん一人ひとりの心に寄り添い、地域医療に貢献できる総合診療医を目指して、日々精進してまいります。まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

## かかりつけ医機能報告制度が始まります

- ・ 特定機能病院を除く全ての病院、診療所が対象です。
- ・ 初回報告は、令和8年1月～3月です。
- ・ かかりつけ医機能報告制度の概要及びガイドラインはこちら

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000123022\\_00007.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000123022_00007.html)

